

看護職部門

看護職部門 入選

笑顔でハイタッチ

【広島県・那須^{なす}万^{まり}里】

時計職人だったAさんは、その日の予定や「時間」に対するこだわりがあり、何度も予定確認のためにナースコールを押していました。寝たきりで、ナースコールを常に握りしめていました。自分の思うようにスタッフの手ですべてをやってもらいたいという要望を持っていて、思い通りにならないと、スタッフに対して声を荒げることもありました。

目が覚めるとナースコール、特別何もなくてもナースコールをする状態でした。ナースコールをする時間帯を見ると、昼夜はあまり関係なく、目が覚めるとナースコールをします。つまり覚醒している時間帯で、しかも家族が帰られた直後が多いうように感じました。

そこで、Aさんへの訪問回数を増やし、その日の予定を聞かれる度に何度でも伝えて「次の自分のとるべき行動が分からない」という不安を取り除くよう努めました。そしてその都度、部屋から退出する際にハイタッチをするようにしてみました。初めはけげんそうな表情でしたが、しだいに柔らかくなり、笑顔も出てくるようになりました。Aさんの手に常に握られていたナースコールはなくなりました。その代わりに万年筆を持ち、日記を書くことを日課としています。

今でも「時間」に対するこだわりは強いAさんです。しかし、自分でできることはやってみようという意欲も表れています。日課である日記もAさんに了承を得て読ませてもらっていますが、毎日スタッフの名前が出てくる日記に、一緒に笑いながら読みます。そして、退室する際はやはりハイタッチです。

きっと、笑顔でハイタッチをしながらの退院もそう遠くはないはずです。